

(別紙)

新 旧 対 照 表

新	旧
<p>4 地域再生計画の目標 略</p> <p>立山連峰は駿河の富士山、加賀の白山と並んで日本3霊山の一つに数えられ、立山信仰の拠点として崇められており、現在は立山黒部アルペンルートとして国内ばかりでなく国外からも多くの観光客を集める国際観光地となっている。</p> <p><u>また、国直営砂防事業がおこなわれている立山カルデラでは、1856年に発生した直下型地震により鳶山が大崩壊し、約4億m³の土砂が、日本でも有数の急流を誇る常願寺川を大土石流となって、大災害を引き起こした。今も、約2億m³の土砂が残り、大雨の時に大災害をもたらす危険をはらんでいる。立山カルデラ内の砂防事業は、富山県民の生活を守る重要な事業であり、富山県民にとって切っても切れないものである。同時に、立山砂防は、100年を超える国家的事業として過去・現在・未来に継承されており、ここを端緒とする砂防理論は世界の砂防技術を飛躍的に発展させ、治水の根幹理論として普及浸透している。1951年ベルギーで開催された国際水文学学会において、『SABO』は国際語として使用されることになったように、日本の砂防技術はアジア、アフリカ、中南米など土砂災害対策を急務とする国々に移転され、世界の防災対策に大きく貢献している。高さ63mの「白岩砂防堰堤」、貯砂量500万m³の「本宮砂防堰堤」など、立山カルデラの砂防施設群は、他に類例がない『山と水を治める』人類の成果として未来に残すべき文化的景観であり、世界遺産への登録を目指している。</u></p> <p><u>そのほかにも、平成14年7月に開村した有峰森林文化村では、平成16年9月に、県産材で建てられた宿泊学習施設が完成し、森林環境教育が推進されている。</u></p>	<p>4 地域再生計画の目標 略</p> <p>立山連峰は駿河の富士山、加賀の白山と並んで日本3霊山の一つに数えられ、立山信仰の拠点として崇められており、現在は立山黒部アルペンルートとして国内ばかりでなく国外からも多くの観光客を集める国際観光地となっている。</p>

(別紙)

新 旧 対 照 表

新	旧
<p>さらに本地域の南側の富山市八尾町は、「越中おわら風の盆」で知られ、胡弓や三味線の音色に合わせて傘を被った男女が踊り、古い町並みを流す風情を見物に毎年全国各地から数多くの観光客が訪れている。</p> <p>略</p> <p>(目標3) 通年通行を可能としアクセス時間を短縮 (林道「今山田中村線」の整備によるアクセス時間の<u>15分短縮</u>)</p> <p><u>(目標4) 林道整備による安全の確保やアクセス時間の短縮</u> <u>(林道「有峰線」等の林道整備による事故の軽減やアクセス時間の5%短縮)</u></p>	<p>さらに本地域の南側の富山市八尾町は、「越中おわら風の盆」で知られ、胡弓や三味線の音色に合わせて傘を被った男女が踊り、古い町並みを流す風情を見物に毎年全国各地から数多くの観光客が訪れている。</p> <p>略</p> <p>(目標3) 通年通行を可能としアクセス時間を短縮 (林道「今山田中村線」の整備によるアクセス時間の<u>短縮15分</u>)</p>
<p>5 目標を達成するために行う事業</p> <p>(5-1) 全体の概要</p> <p>富山県中央部における主要な市道3路線と中山間地域における林道<u>8</u>路線を整備し既設道路と連携した路網の構築を目指すことにより、ヒト・モノの流れの効率化を図る。</p> <p>略</p> <p>林道「石節線」、林道「祖父岳線」が整備されることにより、森林へのアプローチの手段が確保されることから間伐の推進が図られる。</p> <p><u>林道「有峰線」、林道「真川線」を整備することにより、立山カルデラ砂防事業等への工事用車両や見学目的のバスなどのほか、有峰地区を保養、散策、森林環境学習、登山キャンプで訪れる一般車両の安全確保やアクセス時間の短縮を図るうえで重要な役割が期待されている。</u></p> <p>略</p>	<p>5 目標を達成するために行う事業</p> <p>(5-1) 全体の概要</p> <p>富山県中央部における主要な市道3路線と中山間地域における林道<u>9</u>路線を整備し既設道路と連携した路網の構築を目指すことにより、ヒト・モノの流れの効率化を図る。</p> <p>略</p> <p>林道「石節線」、<u>林道「赤目谷線」、林道「栃津線」、林道「白岩線」、</u>林道「祖父岳線」が整備されることにより、森林へのアプローチの手段が確保されることから間伐の推進が図られる。</p> <p>略</p>

(別紙)

新 旧 対 照 表

新	旧
<p>林道「伊折千石線」は平成5年12月に、林道「大辻山線」は平成13年12月に、林道「今山田中村線」については平成15年12月に、林道「祖父岳線」は平成元年12月に「神通川地域森林計画」に掲載されている。また、林道「石節線」は昭和60年12月、<u>林道「有峰線」は平成5年12月に、林道「真川線」は昭和61年12月に</u>「常願寺川地域森林計画」(「常願寺川地域森林計画」は平成3年からは「神通川地域森林計画」に吸収)に掲載されている。</p> <p>(5-2) 法第5章の特別の措置を適用して行う事業 道整備交付金を活用する事業 整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。 [施設の種類の(事業区域)、事業主体] ・市道(富山市)、富山市 ・林道(富山市、立山町、上市町)、富山県、富山市、立山町 [事業期間] ・市道(平成17~21年度)、林道(平成17~21年度) [整備量及び事業費] ・市道2.6km、林道<u>11.9km</u> ・総事業費<u>2,933,590千円</u> 市道 1,322,570千円(うち交付金661,285千円) 林道 <u>1,611,020千円</u>(うち交付金<u>807,685千円</u>)</p>	<p>林道「伊折千石線」は平成5年12月に、林道「大辻山線」は平成13年12月に、林道「今山田中村線」については平成15年12月に、<u>林道「赤目谷線」は平成3年9月、林道「祖父岳線」は平成元年12月に</u>「神通川地域森林計画」に掲載されている。また、林道「石節線」は昭和60年12月、<u>林道「栃津線」は昭和63年12月、林道「白岩線」平成2年12月に</u>「常願寺川地域森林計画」(「常願寺川地域森林計画」は平成3年からは「神通川地域森林計画」に吸収)に掲載されている。</p> <p>(5-2) 法第4章の特別の措置を適用して行う事業 道整備交付金を活用する事業 整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。 [施設の種類の(事業区域)、事業主体] ・市道(富山市)、富山市 ・林道(富山市、立山町、上市町)、富山県、富山市、立山町 [事業期間] ・市道(平成17~21年度)、林道(平成17~21年度) [整備量及び事業費] ・市道2.6km、林道<u>17.8km</u> ・総事業費<u>3,022,240千円</u> 市道 1,322,570千円(うち交付金661,285千円) 林道 <u>1,699,670千円</u>(うち交付金<u>758,935千円</u>)</p>

